# 四条金吾殿御返事　　弘安二年九月一五日　　五八歳

銭一貫文給びて、頼基がまいらせ候とて、法華経の御宝前に申し上げて候。定めて遠くは教主釈尊並びに多宝・十方の諸仏、近くは日月の宮殿にわたらせ給ふも御照覧候ひぬらん。

さては人のよにすぐれんとするをば、賢人・聖人とをぼしき人々も皆そねみねたむ事に候。いわうや常の人をや。漢皇の王昭君をば三千のきさき是をそねみ、帝釈の九十九億那由他のきさきは憍尸迦をねたむ。前の中書王をばをのの宮の大臣是をねたむ。北野の天神をば時平のをとど是をざんそうして流し奉る。此等をもてをぼしめせ。入道殿の御内は広かりし内なれどもせばくならせ給ひ、きうだちは多くわたらせ給ふ。内のとしごろの人々あまたわたらせ給へば、池の水すくなくなれば魚さわがしく、秋風立てば鳥こずえをあらそう様に候事に候へば、いくそばくぞ御内の人々そねみ候らんに、度々の仰せをかへし、よりよりの御心にたがはせ給へば、いくそばくのざんげんこそ候らんに、度々の御所領をかへして、今又所領給はらせ給ふと云云。此程の不思議は候はず。此偏に陰徳あれば陽報ありとは此なり。我が主に法華経を信じさせまいらせんとをぼしめす御心のふかき故か。阿闍世王は仏の御怨なりしが、耆婆大臣の御すゝめによて、法華経を御信じありて代を持ち給ふ。妙荘厳王は二子の御すゝめによて邪見をひるがへし給ふ。此又しかるべし。貴辺の御すゝめによて今は御心もやわらがせ給ひてや候らん。此偏に貴辺の法華経の御信心のふかき故なり。根ふかければ枝さかへ、源遠ければ流れ長しと申して、一切の経は根あさく流れちかく、法華経は根ふかく源とをし、末代悪世までもつきずさかうべしと天台大師あそばし給へり。此の法門につきし人あまた候ひしかども、をほやけわたくしの大難度々重なり候ひしかば、一年二年こそつき候ひしが、後々には皆或はをち、或はかへり矢をいる。或は身はをちねども心をち、或は心はをちねども身はをちぬ。釈迦仏は浄飯王の嫡子、一閻浮提を知行する事、八万四千二百一十の大王なり。一閻浮提の諸王頭をかたぶけん上、御内に召しつかいし人十万億人なりしかども、十九の御年浄飯王宮を出でさせ給ひて、檀特山に入りて十二年、其の間御とものの人五人なり。所謂拘隣と頞鞞と跋提と十力迦葉と拘利太子となり。此の五人も六年と申せしに二人は去りぬ。残りの三人も後の六年にすて奉りて去りぬ。但一人残り給ひてこそ仏にはならせ給ひしか。法華経は又此にもすぎて人信じがたかるべし。

難信難解とは此なり。又仏の在世よりも末法は大難か重さなるべし。此をこ堪らへん行者は、我が功徳にはすぐれたる事、一劫とこそ説かれて候へ。仏滅度後二千二百三十余年になり候に、月氏一千余年が間仏法を弘通せる人、伝記に載のせてかくれなし。漢土一千年、日本七百年、又目録にのせて候ひしかども、仏のごとく大難に値へる人々少なし。我も聖人、我も賢人とは申せども、況滅度後の記文に値へる人一人も候はず。竜樹菩薩・天台・伝教こそ仏法の大難に値へる人々にては候へども、此等も仏説には及ぶ事なし。此即ち代のあ上がり、法華経の時に生まれ値はせ給はざる故なり。今は時すでに後五百歳・末法の始めなり。日には五月十五日、月には八月十五夜に似たり。天台・伝教は先に生まれ給へり。今より後は又のち後ぐ崩へなり。大陣すでに破れぬ、余党は物のか数ずならず。今こそ仏の記しをき給ひし後五百歳、末法の初め、況滅度後の時に当たりて候へば、仏語む虚なしからずば、一閻浮提の内に定めて聖人出現して候らん。聖人の出づるしるしには、一閻浮提第一の合戦を起こるべしと説かれて候に、すでに合戦も起こりて候に、すでに聖人や一閻浮提の内に出でさせ給ひて候らん。きりん麒麟出でしかば孔子を聖人と知しる。鯉社鳴なって聖人出で給ふ事疑ひなし。仏には栴檀の木生をひて聖人とする。老子は二五の文を蹈ふんで聖人とする。末代の法華経の聖人をば何を用ってかしるべき。経に云はく、能説此経・能持此経の人、則ち如来の使ひなり。八巻・一巻・一品・一偈の人、乃至題目を唱ふる人、如来の使ひなり。始中終捨すてずして大難をとをす人、如来の使ひなり。日蓮が心は全く如来の使ひには非あらず、凡夫なる故なり。但し三類の大怨敵に仇あだまれて、二度の流難に値へば如来の御使ひに似たり。心は三毒ふかく一身凡夫にて候へども、口に南無妙法蓮華経と申せば如来の使ひに似たり。過去を尋ぬれば不軽菩薩に似たり。現在をとぶらうに加刀杖瓦石に違たがう事なし。未来は当詣道場疑ひなからんか。これを養やしなはせ給ふ人々は豈同居浄土の人にあらずや。事多しと申せどもとゞめ候。心を以もて計らせ給ふべし。

稚児所労ちごのそらうよくなりたり、悦び候ぞ。又大進阿闍梨の死去の事、末代の耆婆ぎばいかでか此にすぐべきと、皆人舌をふり候なり、さにて候ひけるやらん。三位房が事、さう四郎が事、此の事は宛あたかも符契符契と申しあひて候。日蓮が死生をばま任かせまいらせて候。全く他のく薬師すしをば用ゐまじく候なり。

九月十五日　　日　蓮　花　押

四　条　金　吾　殿